

## 「家族」は孤独の相談相手か、それとも原因か

株式会社 野村総合研究所

社会システムコンサルティング部 シニアコンサルタント 坂田 彩衣

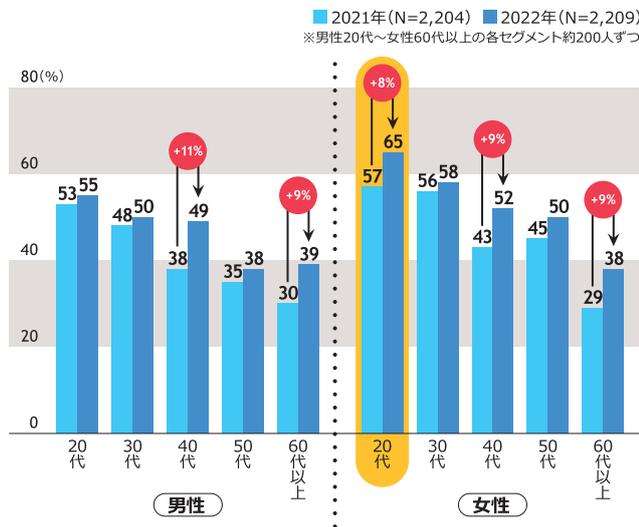
2021年に孤独・孤立対策担当大臣がわが国に誕生してから1年がたち、孤独・孤立対策担当室では、新型コロナウイルス流行の状況を鑑みた重点計画の発表や、孤独・孤立に関する多様なNPO等支援組織間の連携および官民連携を促進する「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」の設置などの措置がなされた。さまざまな孤独への対策が検討される中、人々が抱える孤独はこの1年でどう変わったか。

NRIでは、2021年5月にはじめて、どのような属性の人々が孤独を感じているかについて調査した。その結果、これまで孤独と無縁だと思われていた若者や既婚者に孤独がまん延していることが判明した<sup>\*1</sup>。今回、同じ性年代層(20～60代以上の男女約2,200人)に2021年時点での調査と同じ設問で孤独の感じ方をアンケート調査した結果、全性年代において孤独を感じる割合が増加していることが判明した(図表1)。また、20～30代の若者ほど、孤独を感じる割合が高いという状況も変わっておらず、特に20代女性で65%が「日常において孤独を感じる」と回答している。

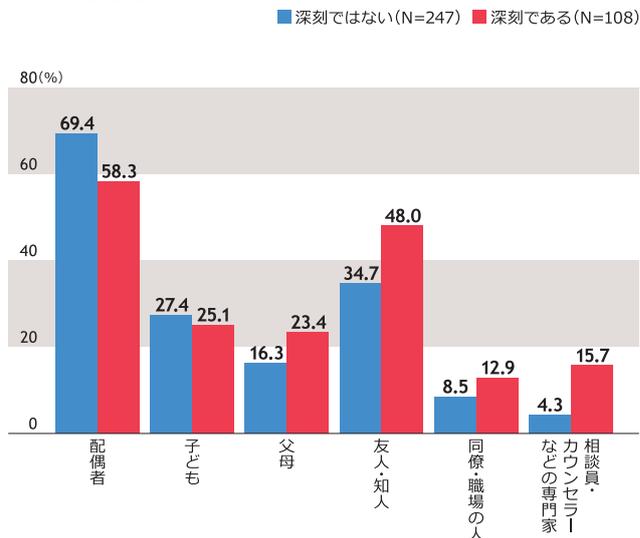
今回の調査では、まん延する孤独の解決策を探るべく、感じている孤独の深刻度や孤独を感じているときに相談したい相手について問う設問も設けた。図表2は、4割が孤独を感じていると回答した既婚者についての調査結果である。感じている孤独の深刻度別に「孤独を感じているときに相談したい相手」を分析したところ、「配偶者」「子ども」と回答した人の割合は、孤独の深刻度が低いほど大きい傾向がみられた。一方で、「父母」「友人・知人」「同僚・職場の人」「相談員・カウンセラーなどの専門家」を選択した回答者の割合は、孤独感の深刻度が高い人ほど大きい。この結果から、深刻な孤独の解決には、核家族外のより多様な居場所づくりや相談支援体制の整備が求められていることがわかる。もしくは、深刻な孤独の原因が核家族内に存在するという可能性も考えられる。

孤独を感じているときの相談相手として、「相談員・カウンセラーなどの専門家」を選択する人は少ないが、対面や電話・メール・SNSでの相談を実施している機関は複数存在する。今回の調査では支援策の認知度についても把握したが、孤独の深刻度が高い人でさえ、それらの支援策を「知っている」と回答した人は1割程度にとどまった。孤独の相談相手の選択肢を増やすという意味では、現存する支援策をより使いやすく、また使うためのハードルを下げた広報する工夫も必要ではないだろうか。

図表1 男女年代別「日常において孤独を感じる」と回答した人の割合 (2021年と2022年の比較)



図表2 既婚者が孤独を感じているときに相談したい相手 (孤独感の深刻度別に集計)



出所) NRI「新型コロナウイルス流行に係る生活の変化と孤独に関する調査」(2022年3月23～25日、全国の20～60代以上の男女を対象としたインターネットアンケート、回答数2,209人)

\*1 NRIパブリックマネジメントレビュー 2021年6月号 Social Insight「若者の中に膨らむ孤独」坂田彩衣